

## グアテマラと日本をつなぐ 第一回

### 高知から見るグアテマラ

グアテマラ生産者ネットワークみるば コーディネーター 栗田 桂子

大学で高知に来て、途中2年は青年海外協力隊でグアテマラに行き、帰国後はまた高知に戻って、積算高知在住歴8年目に突入しました。東京、横浜と大都市で育ったので、高知でのくらしはカルチャーショックの連続でした。なまじ日本国内であるがために、グアテマラで受けたカルチャーショックよりもインパクトがあったような気がします。

東京で資本経済のみが優先されていくのを見、高知で過疎化・高齢化の波にあえぐ地方を見、そしてグアテマラに行き、感じたことは「開発途上国 - 先進国」の構図が「田舎 - 都市」の関係によく似ているということでした。

オカネというものさしを外せば、グアテマラのマヤの人たちは強さと豊かさに満ちあふれていて、うらやましいことこの上ありません。そして共同体としてのつながりをずたずたにされた内戦の話の聞くにつけ、「内戦の前のマヤの人たちの村は一体どんなふうだったのだろう」と想像します。みんなが助け合い、支え合って自然とともにくらす生活は最高に贅沢だったのではないかと思うのです。

よく耳にする、何もかもが筒抜けでプライベートがなく、しがらみだらけ(=「みんな知り合いで人と人とのつながりがあり、共同の決まりに従い助け合ってくらす」と私は解釈しています。)という噂の田舎体験をしたくて、4月から池川町という四国山地のど真ん中、人口約2,200人、高齢化率48%という山村に住んでいます。バイトをしても時給600円程度、人口の約半分は年金暮らしというこの町では、どんなに頑張ってもたいしてお金持ちにはなれません。それでも隣近所はたくさんの採れたて野菜をくれますし、美しい川と緑の山に囲まれ、道々でみんなが挨拶を交わし、80歳のおじいさんが元気に山や畑へ出かけていきます。みんな生き生きとくらししているのに、私に「こんなところへよう来たねえ」「なんちゃあないろうがよ」「まっことこんな人もおるもんじゃあねえ」と言います。「さんこそなんでここに住んでるんですか？町の息子さんのところへ行かないんですか？」と逆に聞き返せば、「あんなところ、住むところやないき。車がうるそうてねえ。友だちもおらんし。」それなら自信を持って言ってほしい。「池川はえいところよ。よう来た。」って。

その一方で、グアテマラでは日々のくらしが厳しい中で、マヤの誇りを持ち続ける強さにいつも心打たれます。どんどん資本主義の考え方とお金流れ込んでくる中で、その誇りを失わずに、生きる権利とマヤの権利を勝ち取ってほしいと願いながら、その解決の糸口が実は池川にもつながっているのではないかと、山村のくらしをかみしめています。日本人ひとりひとりがカネには代えられない本当の豊かさを理解したとき、欧米追従の現状から抜け出し、新しい目線で世界を見ることができるようになるのではないのでしょうか。自分もそれを目指して池川のよさを毎日発掘中です。(2005年8月1日掲載)

\* 池川町は8月1日に仁淀村・吾川村と合併して「仁淀川町」になります。3町村とも人口や産業、地形、現状等あまり違いがなく、継続して「山村の生きる道」を模索していくことになります。

栗田さんが高知での暮らしや山村の生活をつづる「くりけいのページ」にもお立ち寄りください。

<http://mypage.odn.ne.jp/home/kurikei/>

グアテマラ生産者ネットワークみるばのページはこちらで。

<http://www.ne.jp/asahi/world/trotter/fairtrade.htm>